わたしたちの九十九島

遊覧船からの雄大な景観を

九十九島遊覧船「パールクィーン」・船長
赤石　茂美　さん

北九州市出身。平成15年6月1日に同船長に就任。500トン以上の大型船を操縦できる3級海技士免許を保持している。

九十九島は景観がとても美しいですが、入り江や浅瀬が多いので操船が難しく、船長泣かせの場所です。

船長に就任するまでに、3カ月間の訓練を受けましたが、最初はかじを持たせてもらえず、地形を覚えることから始めました。九十九島には海図に載っていない浅瀬がたくさんあり、潮の満ち引きでも深さが異なるため、覚えるのに苦労しました。

また、九十九島には一日として同じ日はありません。航行する時間帯や季節によってその表情を変え、特に、春の大潮の時期は干満の差が最も大きく、まるで別のところに来たのではないかと感じるほどです。

九十九島遊覧はすべてが見どころですが、その中でも、船長たちの間で難所と呼ばれる「梅ケ瀬戸」、「松浦島の三年ケ浦」、「丈ケ島と斧落の間」の3カ所は、浅瀬や島と島のわずかな間を航行するため、ほかでは見ることができない迫力のある景観を楽しめます。

わたしは初めて九十九島を訪れたとき、「今までこんなに素晴らしい場所を知らなかったなんてもったいない」と思いました。日本だけでなく、世界中の人にこの素晴らしさを知ってほしいです。

島と島の間がわずか21mほどの丈ケ島と斧落の間を航行するパールクィーン（幅7.4m、全長34m）

海に親しむ条件がそろった場所

佐世保市海洋スポーツ協会
松尾　晃　さん

福岡県出身。ヨット歴35年。平成4年から毎年夏に、浅子町の二本松海浜で開催している「させぼ海洋スクール」で、子どもたちにマリンスポーツの楽しさを教えている。

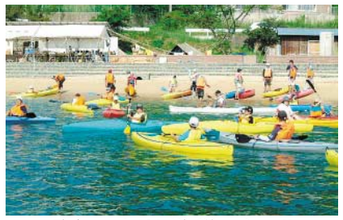
九十九島は、変化に富んだ地形で、ヨットやカヌーなどのマリンスポーツにとって、最適の条件がそろっています。島や入り江が多いので、陸に近いところは穏やかな海域ですが、少し沖に出ると外海が広がるため波も高く、初心者から熟練者まで技術のレベルに応じて楽しむことができます。

マリンスポーツの素晴らしさは、海の「楽しさ」と「厳しさ、恐さ」を、表裏一体となって体験できることです。させぼ海洋スクールでは、ヨットやカヌー、スキンダイビング（素潜り）などを行いますが、子どもたちに教えることは基本的なことだけで、後は自ら体験してもらうだけです。

九十九島は、そのような体験ができる場所なのです。4泊5日のスクールを終えるころには、子どもたちの顔が初日とは違ってたくましく見えます。

最近は、昔の海の美しさが少しずつ戻ってきました。人々の環境に対する意識が変わってきたことが原因の一つだと思いますが、さらにきれいになることを願っています。

佐世保は、市街地からすぐにきれいな海辺まで行くことができます。こんなに恵まれたところは、めったにありません。これからも、気軽に海に親しめる「仕掛け」を考えていきたいと思います。



昨年のさせぼ海洋スクール

島々の新緑は心洗われる風景

北野写真塾・主宰
北野　末吉　さん

佐世保市出身。元佐世保市職員。写真歴約30年。県展や二科展など入賞多数。ホームページを開設し、九十九島の写真を掲載するなどして、幅広い人々に情報も発信している。
【ホームページ】
http://www9.ocn.ne.jp/~kita-s/

本格的に写真を始めたころは、全国各地の景勝地などを訪ねていましたが、短期間滞在してその地を写しても、良い写真はなかなか撮れませんでした。それならば地元に住む利点を生かして、九十九島などの自然を写していこうと思いました。

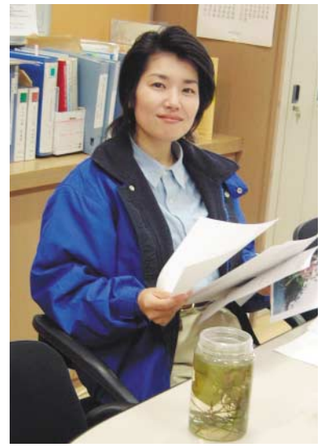
年に百回以上は、撮影のため九十九島に出掛けますが、地元の者であるからこそできることだと思います。

九十九島は、季節や天候、時間によってさまざまな表情を見せてくれます。春から夏にかけての緑や、夕日が沈む風景は有名ですが、特に、5月ごろの晴れた日の午前中、展海峰から望む九十九島の新緑は、心洗われる風景で、すがすがしい気持ちにさせてくれます。

わたしは、撮影のために皆さんが行かないようなところにも行きますが、そこが必ずしも九十九島を見る最適の場所とは限りません。九十九島を見るならば、やはり展海峰や石岳、弓張岳などの展望台がいいと思います。また、パールクィーンなどの船上から、間近に見るのもいいと思います。

展海峰の展望台から望む九十九島（撮影：北野末吉さん）

九十九島は希少な動植物の宝箱



西海パールシーセンター
九十九島調査室
遊佐　匡子　さん

佐世保市出身。平成16年4月12日に、同職に就任。平成14年に発刊の「佐世保市レッドデータブック」の調査にも携わる。

九十九島には、干潟や砂浜、磯などが手つかずの自然のまま残っている豊かな海があり、海や島には、貴重な動植物が数多く生息しています。

例えば、シオアメンボは、全国的に絶滅が懸念されていますが、九十九島は貴重な一大生息地になっています。波風の影響を受けにくい穏やかな入り江に生息し、夏季の避暑に木陰を利用するため、島々の木の枝が海面上まで張り出した九十九島は絶好の環境なのでしょう。

また、トビカズラは、国内では熊本県の菊鹿町相良にしか生息していないと言われていましたが、平成12年、南九十九島のトコイ島でも生育が発見されました。トビカズラは、中国中南部に分布するマメ科の常緑つる性の植物で、相良には約千年前に中国の僧侶によって持ち込まれたという伝説がありますが、トコイ島のものは天然自生なのか、だれか人の手によって持ち込まれたのか分かっていません。

これらの希少な動植物は、ちょっとした環境の変化で絶滅してしまう可能性があるものばかりです。美しい景観を保つには、自然界の微妙なバランスが必要です。九十九島にはごみによる汚染の問題がありますが、美しい九十九島を守り続けていくためには、皆さんの協力が必要です。

シオアメンボ

トビカズラの花。4～5月ころに、紫の花を咲かせ、花の房はたわわに実った巨峰のようです